

2014 北海道の山トイレの現状 ー写真から北海道の山トイレ問題を考えるー

佐藤 文彦（やすひろ）（(有)風の便り工房代表）

私は大雪山国立公園ばかりでなく利尻・礼文、羅臼・斜里・阿寒などの避難小屋と管理人の有無や常駐期間、登山道の状況、トイレの有無、野営地の場所、水場などを調査する仕事もさせてもらっています。当然トイレは重要な調査項目になります。ただトイレについては有無のみに絞られていて（携帯トイレブースも含む）、写真や利用の現状などは出版物には反映されていません。

山のトイレについての情報は現場に行く度に写真を撮ったり、避難小屋管理人の話を聞いたり、自分で確認した事について山のトイレを考える会を通して発表の機会をいただいております。

山のトイレを考える会では、その情報を『やっさんのトイレ調査情報』と題して、2013年よりホームページに掲載しています。今回は2014年分の調査情報を本資料集でもご紹介いただけることになりました。

1. 十勝岳望岳台トイレ調査（2014.7.21, 10.19）

- ①十勝岳、望岳台の公衆トイレ。建設後約 40 年経ているので老朽化が目立ってきている。登山者より一般観光客の利用が多いかもしれない（写真1）
- ②望岳台レストハウスは 2014 年から営業していない。トイレの水を分けてもらっていたトイレが使用できない状況になりそうだったが、美瑛町の協力で水の確保が出来ている（写真2）
- ③トイレ内部は壁にヒビ割れ等も見られるが、まだ使用に耐えられないほどではない（写真3）
- ④望岳台トイレ横の空き地。駐車場からはちょうど陰になり見えにくい。ティッシュは回収したが、まだ空き地に排泄する人は多分いるだろう（写真4）



（写真1）十勝岳望岳台トイレ



（写真2）閉鎖された望岳台レストハウス



(写真3) 望岳台トイレ・壁のひび割れ



(写真4) 望岳台トイレ空き地のティッシュ

2. 白金温泉トイレ調査 (2014.10.19)

- ①白金温泉の公衆トイレ。見てくれもいいし、利用者も多い。特に最近では外国人観光客が多くなっている。設置者は北海道。冬期間は閉鎖される (写真5)
- ②和式トイレ使用法説明絵図。英語、中国語の二通りの言葉で説明してあり、公衆トイレでは初めて見る説明板。イラストにも工夫の跡が見え、なかなか楽しい！ (写真6)



(写真5) 白金温泉・公衆トイレ



(写真6) 英語、中国語のトイレ使用方法

3. 羅臼岳トイレ調査 (2014.8.18～20)

(ホテル地の涯前公衆トイレ)

- ①ホテル地の涯前の公衆トイレ。ボックス内の携帯トイレ回収は1日1回整理すること。この写真は2013年撮影 (写真7)
- ②この写真は2014年撮影、トイレに塗装がされています。メンテナンスもキチンとされていますね (写真8)
- ③右側のトイレは身障者用も兼ねたトイレ。清潔感もあり使いやすそう (写真9)
- ④左側トイレの便槽内部。残念ながらゴミと思われるビニール袋が入っていた (写真10)

⑤普通の施錠式ボックスだが、使用済みトイレが満杯になると施錠されると注意書きにしっかりと書いてあるが…（写真１１）

⑤ボックスの中を見るとまだ多少余裕がある。ゴミが入っているので、いま一步登山者のマナー向上が欲しい！携帯トイレブースが新設されたのだから回収ボックスも増やしてほしいと思いますが…（写真１２）

⑥ルールを守らない登山者が多いらしい。ここまで書いても、まだそのままボックスの中に入れていくようです（写真１３）

⑧回収ボックスのロックのところに注意書きがあり、満杯になると施錠される。施錠後の携帯トイレの行方は？トイレブースが新設されたら、回収ボックスも増設が欲しい所です（写真１４）

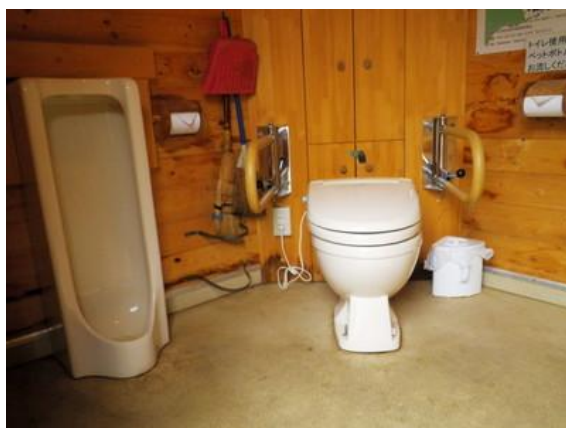
（特記）ホテル地の涯前のバイオトイレは２基とも民間からの寄贈です。右の身障者用は「ＵＩゼンセン同盟北海道支部」、もう一基は「小林製薬（株）」です。



（写真７）2013 地の涯前公衆トイレ



（写真８）2014 地の涯前公衆トイレ



（写真９）地の涯前公衆トイレ内部



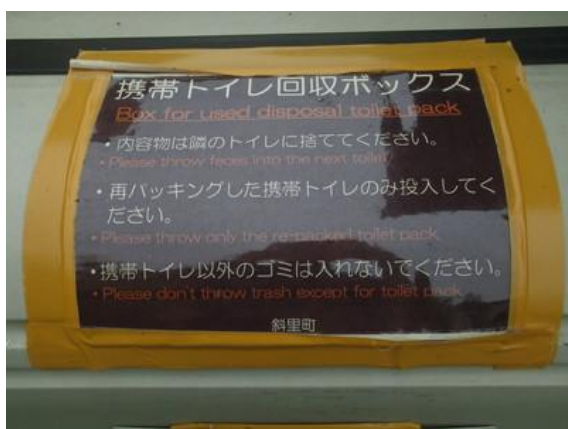
（写真１０）便槽にビニール袋（左側トイレ）



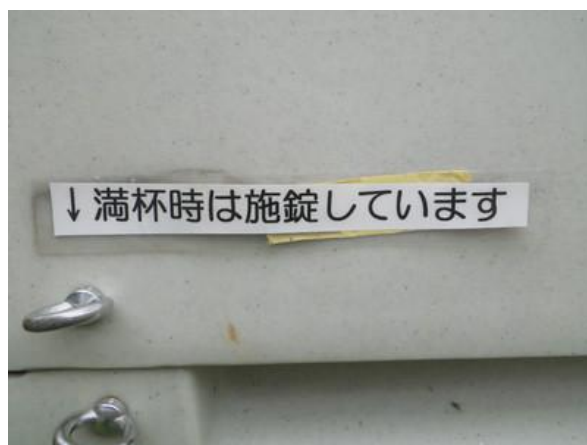
(写真 1 1) 地の涯前の回収ボックス



(写真 1 2) 回収ボックスの内部



(写真 1 3) 回収ボックス注意喚起表示



(写真 1 4) 満杯時は施錠の表示

(木下小屋前トイレ)

- ①2013 年まで木下小屋前トイレにあった回収ボックスが 2014 年からは回収する車輛がホテル前だけとなり撤去された (写真 1 5)
- ②木下小屋前トイレの横壁に掲示してある看板 (写真 1 6)



(写真 1 5) 木下小屋前のトイレ



(写真 1 6) 回収ボックスの場所明示

③トイレの内部に北方領土のポスターが掲示されてあるのは、ここだけです。さすが羅臼岳登山口ですね！（写真１７）

④木下小屋前トイレは協力金を基にして、管理人の法量氏がほとんど個人の予算でトイレトペーパーや清掃を行っていたのをご存知の方はおられるでしょうか(写真１８)



（写真１７）北方領土返還のポスター



（写真１８）トイレ使用協力金入れ

（銀令水）

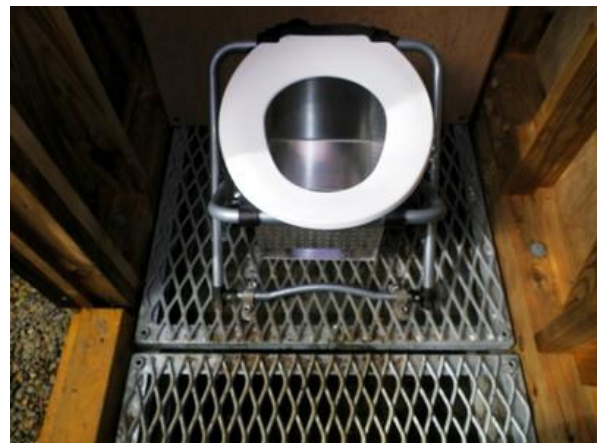
①銀冷水に２０１３年、環境省によって新設された固定式携帯トイレ用ブース。１棟２穴の頑丈な作りになっている（写真１９）

②便器の下部はステンレス製の流路溝方式。清掃の際に作業をしやすくする狙いもあるようだ。外部のコンクリート溝の汚れは水垢、或いは水苔のようだ（写真２０）

③携帯トイレの使用法で一番多い使用例かな？（写真２１）



（写真１９）固定式トイレブース２基



（写真２０）携帯トイレ用の便座



(写真 2 1) 携帯トイレの使い方掲示

(羅臼平)

- ①木下翁のレリーフがある大岩の後ろに登山道のようなトイレ道 (写真 2 2)
- ②トイレ道の先端部は座ると見えない様になっている場所が数カ所ある。昨年あたりから携帯トイレを手を持った年配のご婦人方がこの中に入っていくのを見ている。ブース代わりのようだ (写真 2 3)
- ③ハイマツの中で発見したトイレ痕跡。回収にかなり苦労させられた厄介な場所だった。本人もかなり無理な姿勢でなかったろうか？ (写真 2 4)
- ④回収後の場所。もう少し先だと広いのに。回収者の苦労も考えてほしいなあ！ (写真 2 5)



(写真 2 2) 羅臼平のトイレ道



(写真 2 3) ハイマツの隠れ場所



(写真24) ハイマツの中のトイレ痕



(写真25) トイレ紙回収後

4. 羅臼湖トイレ調査(2014.8.17)

- ①羅臼湖登山口、名簿と携帯トイレ回収ボックスが配置されている。今年は羅臼湖入口を撮影していないので2013年の写真を使用(写真26)
- ②回収ボックス、施錠ではなく軽カラビナで引っ掛けるようにしてある。施錠してあるのよりは使いやすいかも…(写真27)
- ③携帯トイレと一緒にゴミも混じっていた。どうしたら無くなるか?(写真28)
- ④携帯ブースは登山道沿いの刈払い地にあるが、乾燥していて清潔感がある。ブースの周りも汚れていない(写真29)
- ⑤ガイド付きの利用者が多いこともあり、周囲にトイレ痕等を見た事はない(写真30)
- ⑥この写真は前回も掲載。あちこちのブースを見ているがこのイラストは羅臼湖だけ。目立つし簡潔でユーモアもありいち押しです(写真31)
- ⑦携帯トイレの使用方法。導入している山岳地域により特色がある。この説明は他の地区より分かりやすく思う(写真32)
- ⑧ヒグマは携帯トイレを持っていったのではないかな! (写真33)



(写真26) 羅臼湖登山口



(写真27) 羅臼湖の回収ボックス



(写真28) 携帯トイレとゴミが…



(写真29) テント型携帯トイレブース



(写真30) ブース上部の掲示



(写真31) 携帯トイレ便座



(写真32) 携帯トイレ使用法



(写真33) ヒグマの糞

5. 利尻山トイレ調査（2014.7.3～4，8.16～17）

（駕泊コース）

- ①2014年に供用開始の利尻山登山口管理棟。左側がトイレとなっている（写真34）
- ②管理棟内部の清潔感あふれるトイレ（写真35）
- ③2014年供用開始された管理棟のゴミ回収ボックス置き場。分別依頼が掲載（写真36）
- ④利尻山登山口の携帯トイレ回収ボックス。男性使用の広口ペットボトルの廃棄方法が書いてある（写真37）
- ⑤利尻山避難小屋の裏手にある携帯トイレブース。2棟建っている（写真38）
- ⑥利尻ルールとトイレ回収のルール注意書きも掲示されている。利尻山は携帯トイレや登山者への指導が他の山より徹底している感じがします（写真39）
- ⑦登山の注意書きが掲示してある。歩道区切りのトラロープ等には掴まないよう協力しましょう！掴んでロープが緩んできたら危険です（写真40）
- ⑧利尻島のポン山という展望台へ行く散策路。歩きづらくどこかの登山道を思い出させる（写真41）



（写真34）利尻山登山口管理棟



（写真35）管理棟内部



（写真36）ゴミ回収ボックス置き場



（写真37）登山口の回収ボックス



(写真38) 携帯トイレブース



(写真39) 利尻ルールと回収ルール



(写真40) 登山の注意喚起掲示



(写真41) ポン山への散策路

(沓形コース)

①沓形コース登山口の回収ボックス。見た目は良くないが中身はそうでもない

(写真42)

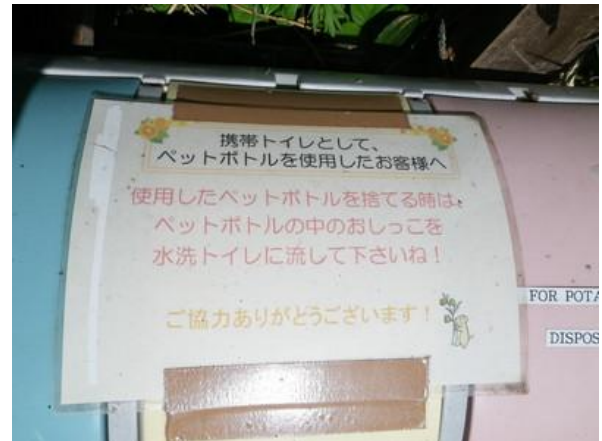
②ここでも男性用ペットボトルの回収が問題になっているようだ。ここはトイレが5分くらい歩かなければならないので、下りて来た登山者はそこまで持っていけないかもしれない(写真43)

③ボックスの内容は、意外にキチンと回収されている。登山者が少ないせいもあるだろう(写真44)

④見かけないトイレ袋が回収されてあった。ゴミかと思って中を見たが回収後の様子があつた。調べるとモンベルの携帯トイレであつた(写真45)



(写真４２) 沓形コース登山口の回収ボックス



(写真４３) 男性用ペットボトルの注意



(写真４４) 回収ボックスの内部



(写真４５) モンベルの携帯トイレ

6. 礼文島トイレ調査（２０１４.７.６）

- ①礼文林道中間部のバイオトイレ。阪急交通社の寄贈で建てられたもの。(写真４６)
- ②右のトイレは何の説明も無く「使用禁止」と貼ってあった。多分水分の過多が原因ではないかと思われる。近くの監視小屋に聞いても要領を得ない回答が返ってくるだけでした。トイレブース設置のモデルにもなるのではと思われるので、かなり残念ですね！(写真４７)
- ③使用禁止の横にバイオトイレのモデル地区として黒岳のトイレが示されているのは何とも言えない皮肉ですねえ。少しドキッとしました(写真４８)
- ④使用禁止横のトイレ内部です。水分過多でもなくいたって順調な様子。となると使用禁止トイレは水分過多でない可能性が大いにありますねえ(写真４９)
- ⑤使用方法もシンプルで分かりやすいが、地域のカラーが出ていないのが少しさみしい。まあそれは贅沢というものでしょう(写真５０)
- ⑥便槽熱源補給の発電機と思われるが、水分が多い状況になってしまったら熱源補給が立派でも、しょうがないですねえ(写真５１)



(写真4 6) 礼文林道のバイオトイレ



(写真4 7) 理由が書かれていない



(写真4 8) バイオトイレの説明板



(写真4 9) バイオトイレの便槽の中



(写真5 0) バイオトイレ使用上の注意



(写真5 1) 便槽熱源補給装置

(以 上)

(山のトイレを考える会から)

佐藤文彦氏からメールで提供していただいた山岳トイレ情報を氏の了解を得て当会の仲俣が編集して本資料集に掲載しました。当会のホームページでも紹介しています。